

山形県庄内地方における 2直轄河川の事業取組み

国土交通省 東北地方整備局
酒田河川国道事務所 所長 鈴木 之



県を南部から北部に貫流しており、米沢市や南陽市、そして県庁所在地である山形市などを抜け庄内地域の酒田市（人口96,169人（R5.8.1現在）（県内第3位）で日本海に注いでいます。流域面積7,040km²、幹川流路延長229kmの一級河川で全国で7番目の延長でありながら、一つの県で源流から河口までを完結

する河川です。

当事務所が管理する最上川の下流部（31km）は、三大急流の様相とは変わり、扇状地として広がる庄内平野の中心を貫流し、水道用水、工業用水、農業用水、発電用水としての重要な水源であり、今日の地域産業の発展を担っております。

最上川流域では、過去幾度も洪水が発生し、特に昭和42年8月洪水（羽越豪雨）（1967年）では、上流部、また、昭和44年8月洪水（1969年）では、中下流部でも大きな災害となり、両洪水により多数の死者・家屋の全壊等を伴いました。近年においては、令和2年7月豪雨により中流部で既往最高

1. はじめに

酒田河川国道事務所は、山形県庄内地方を流れる最上川と赤川の河道掘削や堤防強化を実施するとともに、環境整備事業として赤川の「かわまちづくり事業」を実施するなど、災害に強く、安心して快適に暮らせる地域づくりのために、地域みなさんと一緒に事業を進めております。

2. 庄内地方の2本の直轄河川

①最上川

松尾芭蕉の句「五月雨を集めて早し最上川」にあるように日本三大急流の一つに数えられる最上川は、山形



最上川河口部と酒田市街地



水位を更新し、令和4年8月出水では上流部で既往最高水位を更新するなど甚大な被害が発生しかねない出水となっております。

最上川の主要な洪水調節施設としては上流部に、3つの直轄ダム（長井ダム、白川ダム、寒河江ダム）、1つの遊水地（大久保遊水地）が設置され、当事務所管内の堤防整備率もほぼ100%となっていることから、最上川のなかでは高い治水対策の水準となっております。

しかし、平成30年8月に発生した出水では氾濫危険水位を超える観測史上2番目の水位を記録し、また近年全国各地で類発する豪雨災害を踏まえ、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」により洪水時の水位低下を目的に河道掘削や樹木伐採を実施し、安全性の向上を図っているところです。

②赤川

赤川は、その源を山形・新潟県境の朝日山系以東岳に源を發し北に流れ、山間部の上流部は大鳥川とも呼ばれ、朝日村落合で月山を水源とする梵字川を合わせ赤川に名前が変わります。直轄管理区間となる下流側は大正時代までは海岸に沿って北へ流れ最上川に合流していましたが、合流付近で頻発する洪水に対して、砂丘を切り開き日本海に直接放流する赤川放水路が建設され、昭和11年（1936年）に完成（関連工事は1942年完成）、現在は庄内地域の鶴岡市（人口117,294人(R5.8.1現在)（県内第2位））を貫流し、日本海に注いでいます。流域面積856.7km²、流路延長70.4kmの一級河川です。

当事務所は、下流部（33km）の改修と管理を担当しておりますが主要な洪水調節施設として上流部に月山

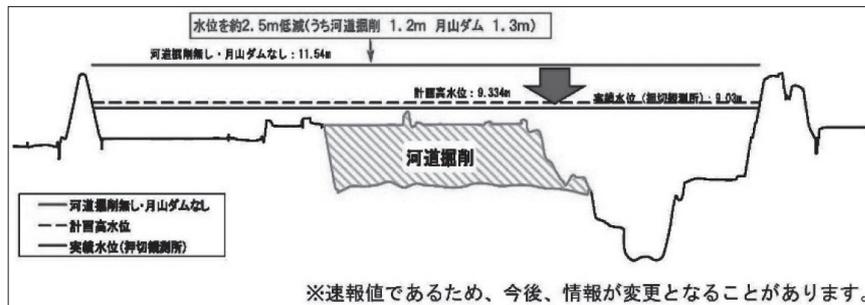
ダム（直轄）、荒沢ダム（県）があり、下流の水位低減に大きな効果を発現しております。

当事務所管内の赤川の堤防整備率は約91%となっております最上川と同様に高い治水対策水準となっておりますが、赤川でも「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」により洪水時の水位低下を目的に河道掘削を実施し、安全性の向上を図っているところです。

赤川の近年の出水としては、令和2年7月において3箇所の水位観測所で観測史上1位を記録するなど大規模な被害が発生しかねない出水となりましたが、出水後の検証シミュレーションではこれまでの河道掘削により約1.2m、月山ダムにより約1.3m、あわせて約2.5mの水位低減効果があったと計算しており、河道掘削と月山ダムが無かった場合の想



令和2年7月 赤川の洪水状況



※速報値であるため、今後、情報が変更となることがあります。

令和2年7月 赤川（押切地点）の河道掘削・ダムによる水位低減効果

定では、計画高水位を約 2.3m 超過し堤防高を越える越流や決壊など甚大な被害が発生したものと考えております。

かわまちづくり事業

赤川では、令和 2 年度から「鶴岡市赤川かわまちづくり事業」に着手しています。本事業では、市街地部と赤川沿いのネットワークを構築し、鶴岡市街から市民や観光客が赤川に足を運んで頂くことで、憩いの場や観光振興にも寄与することを目的としております。

整備にあたっては、鶴岡市と連携して「赤川かわまちづくりワークショップ」を開催し、整備メニューや施工場所、利活用方法、維持管理体制等について地域住民や有識者などの意見を伺い、合意形成を図りながら整備を進めております。

当事務所では、ハード整備として赤川沿いに管理用通路及び親水護岸等の河川管理用施設の整備により賑わいのある水辺空間の創出を図ります。



鶴岡市赤川かわまちづくり事業整備イメージ

3. 「流域治水の取組み」

国土交通省では気候変動に伴い降雨量が増大し激甚化・頻発化する水害・土砂災害等に対し、堤防整備、ダム建設・再生などの対策をより一層加速するとともに集水域から氾濫域にわたる流域のあらゆる関係者で水災害対策を推進する「流域治水」を全国で取組み始めておりますが、庄内地域においても、関係者が協働して流域治水を計画的に推進するための勉強会を各自治体と開催し、協議・情報共有を行っております。

しかし、流域治水は行政機関だけで達成できる取組みではなく、民間企業や流域内の住民の方々など、多様な人たちの理解や合意が必要になることから、丁寧な説明を行いながら地域の実情に合わせた調整を進める必要があります。日本有数の穀倉地帯である庄内地域の特徴を生かした田んぼダムの導入などについて検討を進めております。

また、各河川管理者が最上川や赤川での河道掘削に合わせて、支川でも同様に河道掘削や堤防のかさ上げ、樋管（門）操作及び内水排除のための運用変更の検討を行うなど国、県、自治体が一体となり最大の被害抑制効果発現に向けた取組みも進めております。

4. おわりに

庄内地方は、山形県の第 2・第 3 位の人口である鶴岡市・酒田市を有し、東に月山・湯殿山・羽黒山から成る山岳修験の聖地出羽三山、南にブナ原生林の地である朝日連峰の山々に抱かれ、北に出羽富士と称される鳥海山、西は日本海に面する四季折々の山の幸・海の幸に恵まれた自然豊かな地域で、豊かな食文化を形成しております。

また、庄内平野ではブランド米の庄内米が生産されており農業生産が地域経済に与える貢献度も大きいものとなっております。

今日の庄内平野があるのは、古くからの治水事業によるものも大きいと思っており、今後も豪雨災害等に対して、庄内地域の安全・安心を確保し続けるように着実に治水対策を推進してまいります。



赤川かわまちづくりワークショップ状況 (R5.5.27)